

# 中学1年時における学習方略獲得の促進

東京電機大学中学校・高等学校 濱口 莉花

## 実践背景と課題

- 中学受験で培った基盤  
→ 小学校や塾での受動的な勉強から自律的な学びへの成長
- 反復方略を中心とした授業形態  
〈長期的反復〉 ラウンドシステム・・・教科書を1年間に3回繰り返す  
〈短期的反復〉 授業内での復習・教科書準拠ワークブックの宿題  
→ 授業を通じて方略を会得できるか  
学習成績の向上に結び付けられるか  
メタ認知の育成（振り返りの活動）
- 学習動機、自己効力感と学習方略との関連性  
→ 生徒の性質や傾向を考慮した授業の展開

## 実践方法

- 対象学年：中学1年生 A組、D組、E組（各クラス33名）
- クラスの特性：4単位授業
- 実践期間：2024年5月～11月
- 実践内容：1. アンケートによる調査  
2. 学習方略の意識づけ  
3. 振り返りの活動

- 1. アンケートによる調査（※「取得データおよび検証方法」参照）
- 2. 学習方略の意識づけ（7月・10月 2回）  
定期考査直前の授業で、スライドを配布し学習方略の意識づけを行った。

工夫して勉強しよう

Learning Strategy

※本文は、  
濱口莉花氏「『読む力』学習方略の獲得と実践（東京電機大学中学校・高等学校）」より転載（2024）

① くり返し 【反復方略】

② 結びつける 【精緻化方略】

③ まとめる 【体制化方略】

④ チェックする 【モニタリング】

⑤ 調節する 【コントロール】

⑥ 計画を立てる 【プランニング】

①くり返し 【反復方略】

- 単語 繰り返し練習する
- ワークブック 繰り返し解く
- 教科書全体 ラウンドシステム

ワークブックのくり返し

- ・何回も解く
- ・間違えたところを解く
- ・間違えたところはマークすると役に立つ！

マークの例

回数によってマークする色を分けると◎

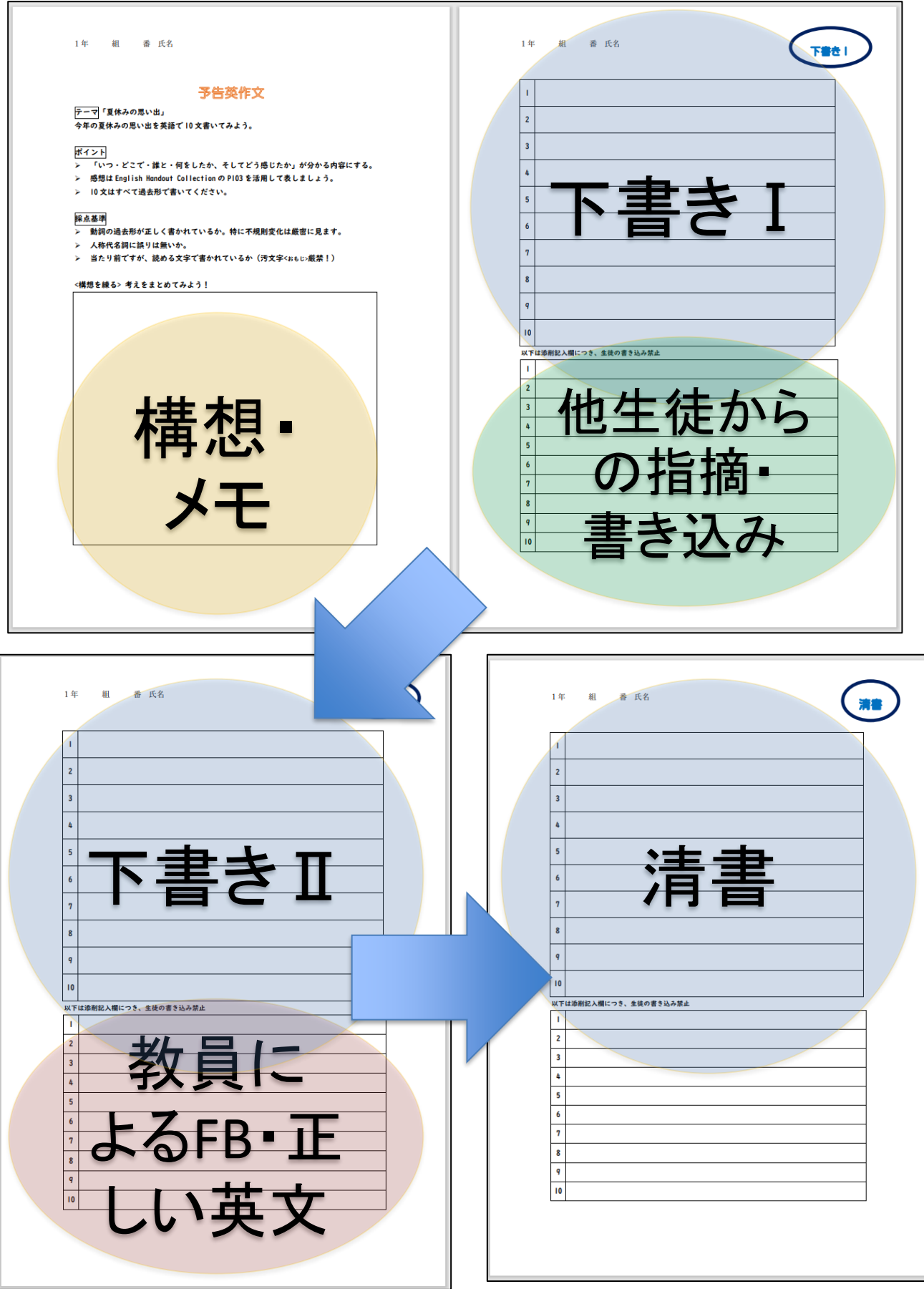
- ・1回目…鉛筆で丸
- ・2回目…黄色の蛍光ペンでマーク
- ・3回目…ピンクの蛍光ペンでマーク
- ・4回目…他の色のペンでマーク

連続で間違えたら、オレンジになっちゃうかも

②結びつける 【精緻化方略】

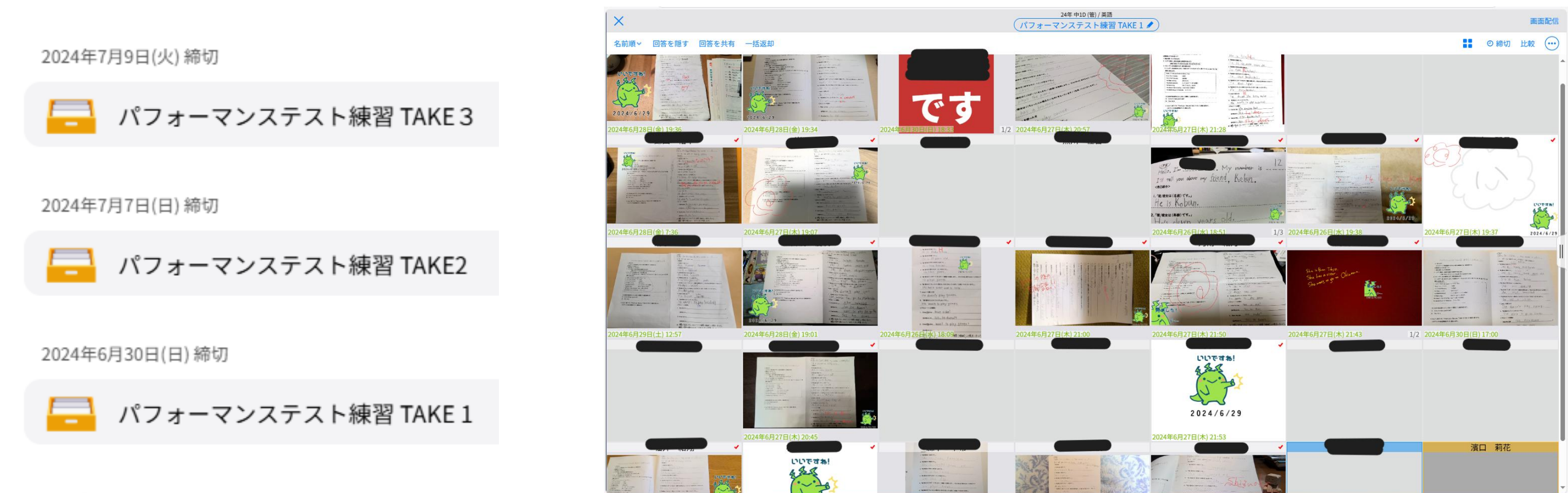
- ・イメージ(画像)と結びつける  
例) 教科書の絵、授業中のスライド
- ・教科書のストーリー結びつける  
例) 「Nickが『青いの』を欲しがって、"blue one"って言っていたな！」

- 3. 振り返りの活動（メタ認知方略）  
「書く」活動
  - ① 下書きⅠを書く
  - ② 下書きⅠを班で回し読みし、お互いの間違いを書き込んで指摘する
  - ③ メンバーからの指摘をふまえ、下書きⅡを書く
  - ④ 下書きⅡを教員に提出する
  - ⑤ 教員からのフィードバックを見ながら清書する
  - ⑥ 清書を見ながら書いて練習する
  - ⑦ ペーパーテスト（定期考査）



- 「話す」活動
  - ① 読み上げ原稿を作る
  - ② 授業内で会話文・プレゼンを練習する
  - ③ 自宅でロイロノートの録音機能を使用し、音声提出する
  - ④ 自分の音声を聞きなおす
  - ⑤ 音声で間違っていた箇所を意識しながら練習する
  - ⑥ パフォーマンステスト（口頭試験）
- (※③、④の過程を複数回、日を分けて設け「TAKE1」「TAKE2」...とした)

【ロイロノートの提出ページ】



## 取得データおよび検証方法

- アンケート
  - ・実施回数：3回（5月上旬、6月下旬、10月上旬）
  - ・調査項目：
    - ①「学習方略」「動機づけ調整方略（協同方略）」
    - ②「学習動機」
    - ③「自己効力感」
  - ・解答方法：
    - ①学習方略
      - 6. とても役立つ
      - 5. まあまあ役立つ
      - 4. 少し役立つ
      - 3. あまり役立たない
      - 2. 役立たない
      - 1. まったく役立たない
    - ②学習動機・③自己効力感
      - 6. とても当てはまる
      - 5. 当てはまる
      - 4. 少し当てはまる
      - 3. あまり当てはまらない
      - 2. 当てはまらない
      - 1. まったく当てはまらない
  - ・クラス平均値
  - ・1～6それぞれの数値の割合・円グラフで可視化
- 学習成績（定期考査得点、模試偏差値）

## 結果

- アンケート結果  
以下を算出し、第1回と第2回の結果を比較した。
  - ・全体回答平均値
  - ・クラス回答平均値
  - ・個人回答数値

		6月 実践前	10月 実践後	差異
認知的方略	反復方略	4.49	4.66	0.17
	体制化方略	4.25	4.66	0.41
	精緻化方略	3.98	4.07	0.09
メタ認知方略	モニタリング	4.30	4.49	0.19
	プランニング	4.55	4.87	0.32
	コントロール	4.39	4.58	0.19
学習動機	協同方略	4.01	4.21	0.20
	内容関与動機	4.09	4.54	0.45
	内容分離動機	3.21	3.34	0.13
自己効力感		2.93	3.10	0.17

### ■ 学習成績

	学力推移調査 平均点偏差値		定期考査 平均点		
	4月	9月	1学期中間	1学期期末	2学期中間
全体 (非介入クラスを含む)	47.1	45.7	51.9	52.7	49.1
A	47.6	45.8	50.3	53.7	52.9
D	48.0	48.0	53.5	58.6	56.1
E	44.3	43.0	44.1	47.0	38.3

## 考察と今後の課題

- 成果  
回答数値の上昇・・・学習方略：体制化方略、プランニング、モニタリング(A、D組)  
学習動機：内容関与動機  
自己効力感
- 課題
  - ・学習成績の変化がない  
→ 学習方略を反映した教材・授業づくり
  - ・クラス間での差異が大きい  
→ それぞれのクラスに適切なアプローチ
  - ・成績が比較的良好くても自己効力感は低い  
→ 日頃のポジティブなフィードバック  
定期考査の平均点を高く設定する
  - ・メタ認知方略の数値が伸びづらい  
→ 授業内外でのサポート